

二つの計画素案を見て考えたこと (中国の古典等を読んでの知識から)

Y(2023.1.30)

人を説得するとは

(1) その前の段階

そういう話、可能性があるということ
これは、我が考えでまた説得の
できるところまでは行かない
客観的事実の存在する段階
(誰のものでもない)

説得の前の段階、駅前開発①～③、
又は少年院跡地外①～⑧の可能
性があるかもしれない段階
(誰のものでもない)

コンプレックス商業ビルの提案①～⑪
これも可能性があるかもしれない段階
(誰のものでもない)

(2) その前の段階の具体化

- ① 先方の了解を得る
- ② 当方の計画を説明する
- ③ 計画の具体化を相手に説明する
- ④ 提案書の作成の了解を相手から得る

(3) 実行の具体化

この段階(説得の段階)

A、相手の心を知る B、我が説を充てる

相手が A を自覚し、
それを我が説の B と
一致を確かめてから、
相手を説得できる条件が整う

C、説得、同意の段階

実行、同意を経て実行計画
を立て、実行可能性がある

D、実行

二つの計画素案を見て考えたこと (中国の古典等を読んでの知識から)

Y(2023.1.30)

人を説得するとは

(1) その前の段階	この段階(説得の段階)
そういう話、可能性があるということ これは、我が考えでまた説得の できるところまでは行かない 客観的事実の存在する段階 (誰のものでもない)	A、相手の心を知る B、我が説を充てる ┌──────────┐ 相手が A を自覚し、 それを我が説の B と 一致を確かめてから、 相手を説得できる条件が整う
説得の前の段階、駅前開発①～③、 又は少年院跡地外①～⑧の可能 性があるかもしれない段階 (誰のものでもない)	
コンプレックス商業ビルの提案①～⑪ これも可能性のあるかもしれない段階 (誰のものでもない)	
(2) その前の段階の具体化	C、説得、同意の段階
① 先方の了解を得る	実行、同意を経て実行計画 を立て、実行可能性がある
② 当方の計画を説明する	
③ 計画の具体化を相手に説明する	
④ 提案書の作成の了解を相手から得る	
(3) 実行の具体化	D、実行

- ① 蘇秦「揣摩」(先方の心の目的、秘密を推測)
於是周君「陰符」、伏而説之、其年以出揣摩。
- ② 韓非子「説難」(相手の心を知り、自分の説を合わせる)
凡説之難、在知所説之也、可以吾説之。

二つの計画素案を見て考えたこと(2)
(中国の古典等を読んでの知識から)

Y(2023.02.01)

Y(2023.01.30)

人を説得するとは

(1) その前の段階	この段階(説得の段階)	
そういう話、可能性があるということ これは、我が考えでまた説得の できるところまでは行かない 客観的事実の存在する段階 (誰のものでもない)	A、相手の心を知る	B、我が説を充てる
説得の前の段階、駅前開発①～③、 又は少年院跡地外①～⑧の可能 性があるかもしれない段階 (誰のものでもない)	相手が A を自覚し、 それを我が説の B と 一致を確かめてから、 相手を説得できる条件が整う	
コンプレックス商業ビルの提案①～⑪ これも可能性があるかもしれない段階 (誰のものでもない)	・ ・ ・ 王	・ ・ ・ 自分
(2) その前の段階の具体化	C、説得、同意の段階	
① 先方の了解を得る	実行、同意を経て実行計画	
② 当方の計画を説明する	を立て、実行可能性のある	
③ 計画の具体化を相手に説明する		
④ 提案書の作成の了解を相手から得る		
(3) 実行の具体化	D、実行	
王の心を知る	自分の自覚	投入・実行
陰されている	情報力	全力をあげる
認識している	人脈	全力をあげる
目的としている	経験	全力をあげる
計画している	資金力	全力をあげる
協力を探している	実行力	全力をあげる
求めている	対応力	全力をあげる

差出人: yamauchi masaki masaki_yamauchi@hotmail.com

件名: 苏秦 (史记卷六十九) 苏秦列传第十

日付: 2023/01/29 14:49:55

宛先: masaki_yamauchi@hotmail.com

苏秦 (史记卷六十九) 苏秦列传第十

苏秦者，东周雒阳人也。东事师于齐，而习之于鬼谷先生。

出游数岁，大困而归。

兄弟嫂妹妻妾窃皆笑之，曰：“周人之俗，治产业，力工商，逐什二以为务。今子释本而事口舌，困，不亦宜乎！”

苏秦闻之而惭，自伤，乃闭室不出，出其书遍观之。

曰：“夫士业已屈首受书，而不能以取尊荣，虽多亦奚以为！”

于是得周书阴符，伏而读之。

期年，以出揣摩，曰：“此可以说当世之君矣。”求说周显王。

显王左右素习知苏秦，皆少之。弗信。乃西至秦。秦孝公卒。

说惠王曰：“秦四塞之国，被山带渭，东有关河，西有汉中，南有巴蜀，北有代马，此天府也。以秦士民之众，兵法之教，可以吞天下，称帝而治。”

秦王曰：“毛羽未成，不可以高蜚；文理未明，不可以并兼。”方诛商鞅，疾辩士，弗用。乃东之赵。

赵肃侯令其弟成为相，号奉阳君。奉阳君弗说之。

去游燕，岁余而后得见。说燕文侯曰：“燕东有朝鲜、辽东，北有林胡、楼烦，西有云中、九原，南有口、易水，地方二千余里，带甲数十万，车六百乘，骑六千匹，粟支数年。

南有碣石、鴈门之饶，北有枣栗之利，民虽不佃作而足于枣栗矣。

此所谓天府者也。“夫安乐无事，不见覆军杀将，无过燕者。大王知其所以然乎？夫燕之所以不犯寇被甲兵者，以赵之为蔽其南也。秦赵五战，秦再胜而赵三胜。秦赵相毙，而王以全燕制其后，此燕之所以不犯寇也。

且夫秦之攻燕也，踰云中、九原，过代、上谷，弥地数千里，虽得燕城，秦计固不能守也。秦之不能害燕亦明矣。今赵之攻燕也，发号出令，不至十日而数十万之军军于东垣矣。

渡滹沱，涉易水，不至四五日而距国都矣。

故曰秦之攻燕也，战于千里之外；赵之攻燕也，战于百里之内。

夫不忧百里之患而重千里之外，计无过于此者。

是故愿大王与赵从亲，天下为一，则燕国必无患矣。”

文侯曰：“子言则可，然吾国小，西迫强赵，南近齐，齐、赵强国也。

子必欲合从以安燕，寡人请以国从。”于是资苏秦车马金帛以至赵。

而奉阳君已死，即因说赵肃侯曰：“天下卿相人臣及布衣之士，皆高贤君之行义，皆愿奉教陈忠于前之日久矣。

虽然，奉阳君而君不任事，是以宾客游士莫敢自尽于前者。今奉阳君捐馆舍，君乃今复与士民相亲也，臣故敢进其愚虑。“窃为君计者，莫若安民无事，且无庸有事于民也。

安民之本，在于择交，择交而得则民安，择交而不得则民终身不安。

请言外患：齐秦为两敌而民不得安，倚秦攻齐而民不得安，倚齐攻秦而民不得安。故夫谋人之主，伐人之国，常苦出辞断绝人之交也。愿君慎勿出于口。请别白黑所以异，阴阳而已矣。君诚能听臣，燕必致旃裘狗马之地，齐必致鱼盐之海，楚必致橘柚之园，韩、魏、中山皆可使致汤沐之奉，而贵戚父兄皆可以受封侯。夫割地包利，五伯之所以覆军禽将而求也；封侯贵戚，汤武之所以放弑而争也。

今君高拱而两有之，此臣之所以为君愿也。“今大王与秦，则秦必弱韩、魏；与齐，则齐必弱楚、魏。魏弱则割河外，韩弱则效宜阳，宜阳效则上郡绝，河外割则道不通，楚弱则无援。此三策者，不可不孰计也。”夫秦下轶道，则南阳危；劫韩包周，则赵氏自操兵；据卫取卷，则齐必入朝秦。秦欲已得乎山东，则必举兵而向赵矣。秦甲渡河踰漳，据番吾，则兵必战于邯郸之下矣。

此臣之所为君患也。“当今之时，山东之建国莫强于赵。赵地方二千余里，带甲数十万，车千乘，骑万匹，粟支数年。西有常山，南有河漳，东有清河，北有燕国。燕固弱国，不足

差出人: yamauchi masaki masaki_yamauchi@hotmail.com
件名: 韩非子 (史记卷六十三) 老子韩非子列传第三
日付: 2023/01/23 20:20:50
宛先: masaki_yamauchi@hotmail.com

韩非者，韩之诸公子也。

喜刑名法术之学，而其归本于黄老。非为人口吃，不能道说，而善著书。

与李斯俱事荀卿，斯自以为不如非。非见韩之削弱，数以书谏韩王，韩王不能用。

于是韩非疾治国不务修明其法制，执势以御其臣下，富国强兵而以求人任贤，反举浮淫之蠹而加之于功实之上。以为儒者用文乱法，而侠者以武犯禁。

宽则宠名誉之人，急则用介胄之士。

今者所养非所用，所用非所养。悲廉直不容于邪枉之臣，观往者得失之变，故作孤愤、五蠹、内外储、说林、说难十余万言。

然韩非知说之难，为说难书甚具，终死于秦，不能自脱。

说难曰：凡说之难，非吾知之有以说之难也；

又非吾辩之难能明吾意之难也；又非吾敢横失能尽之难也。

凡说之难，在知所说之心，可以吾说当之。

「説得の難しさは、自分がその内容を理解することの難しさではない。

自分が上手に説明する難しさでもない。

相手の心を読んで、自分の説をそれに合わせることにある」

所说出于为名高者也，而说之以厚利，则见下节而遇卑贱，必弃远矣。其上盖有许由冢云。孔子序列古之仁圣贤人，如吴太伯、伯夷之伦详矣。余以所闻由、光义至高，

其文辞不少概见，何哉？孔子曰：“伯夷、叔齐，不念旧恶，怨是用希。”“求仁得仁，又何怨乎？”

余悲伯夷之意，睹轶诗可异焉。

其传曰：伯夷、叔齐，孤竹君之二子也。

父欲立叔齐，及父卒，叔齐让伯夷。伯夷曰：“父命也。”

遂逃去。叔齐亦不肯立而逃之。国人立其中子。

于是伯夷、叔齐闻西伯昌善养老，盍往归焉。

及至，西伯卒，武王载木主，号为文王，东伐纣。

伯夷、叔齐叩马而谏曰：“父死不葬，爰及干戈，可谓孝乎？以臣弑君，可谓仁乎？”左右欲兵之。

太公曰：“此义人也。”扶而去之。

武王已平殷乱，天下宗周，而伯夷、叔齐耻之，义不食周粟，隐于首阳山，采薇而食之。及饿且死，作歌。

其辞曰：“登彼西山兮，采其薇矣。以暴易暴兮，不知其非矣。

神农、虞、夏忽焉没兮，我安适归矣？

于嗟徂兮，命之衰矣！”遂饿死于首阳山。

由此观之，怨邪非邪？或曰：“天道无亲，常与善人。”

若伯夷、叔齐，可谓善人者非邪？积仁絜行如此而饿死！

且七十子之徒，仲尼独荐颜渊为好学。

然回也屡空，糟糠不厌，而卒蚤夭。

天之报施善人，其何如哉？盗跖日杀不辜，肝人之肉，

暴戾恣睢，聚党数千人横行天下，竟以寿终。是遵何德哉？

此其尤大彰明较著者也。若至近世，操行不轨，专犯忌讳，

而终身逸乐，富厚累世不绝。或择地而蹈之，时然后出言，行不由径，非公正不发愤，而遇祸灾者，不可胜数也。

余甚惑焉，悦所谓天道，是邪非邪？子曰“道不同不相为谋”，亦各从其志也。故曰“富贵如可求，虽执鞭之士，吾亦为之。如不可求，从吾所好”。“岁寒，然后知松柏之后凋”。

举世混浊，清士乃见。岂以其重若彼，其轻若此哉？“

君子疾没世而名不称焉。”贾子曰：“贪夫徇财，烈士徇名，夸者死权，众庶冯生。”“同明相照，同类相求。”

云从龙，风从虎，圣人作而万物睹。”。

非知之难也，处知则难矣。

昔者弥子瑕见爱于卫君。卫国之法，窃驾君车者罪至刖。

既而弥子之母病，人闻，往夜告之，弥子矫驾君车而出。

君闻之而贤之曰：“孝哉，为母之故而犯刖罪！”

与君游果园，弥子食桃而甘，不尽而奉君。

君曰：“爱我哉，忘其口而念我！”及弥子色衰而爱弛，

得罪于君。君曰：“是尝矫驾吾车，又尝食我以其余桃。”

故弥子之行未变于初也，前见贤而后获罪者，

爱憎之至变也。故有爱于主，则知当而加亲；见憎于主，

则罪当而加疏。故谏说之士不可不察爱憎之主而后说之矣。

夫龙之为虫也，可扰狎而骑也。然其喉下有逆鳞径尺，

人有婴之，则必杀人。

人主亦有逆鳞，说之者能无婴人主之逆鳞，则几矣。

人或传其书至秦。秦王见孤愤、五蠹之书，曰：“嗟乎，

寡人得见此人与之游，死不恨矣！”

李斯曰：“此韩非之所著书也。”秦因急攻韩。
韩王始不用非，及急，乃遣非使秦。秦王悦之，未信用。
李斯、姚贾害之，毁之曰：“韩非，韩之诸公子也。
今王欲并诸侯，非终为韩不为秦，此人之情也。
今王不用，久留而归之，此自遗患也，不如以过法诛之。”

秦王以为然，下吏治非。李斯使人遗非药，使自杀。
韩非欲自陈，不得见。秦王后悔之，使人赦之，非已死矣。
韩子皆著书，传于后世，学者多有。
余独悲韩子为说难而不能自脱耳。

太史公曰：老子所贵道，虚无，因应变化于无为，
故著书辞称微妙难识。庄子散道德，放论，要亦归之自然。
申子卑卑，施之于名实。韩子引绳墨，切事情，明是非，
其极惨礉少恩。皆原于道德之意，而老子深远矣。